

令和3年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

令和3年3月29日策定

令和4年1月6日変更

独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第31条の規定により、平成30年3月30日付け29文科政第97号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、令和3年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度は、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、「生命・健康」「社会の安寧」を第一とした上で、文化芸術の継承・振興・普及及び社会への寄与を継続し、当振興会に課された使命の達成に努める。事業の実施に当たっては、ガイドライン等に基づき十分な感染症対策を講じる。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）を契機とする文化プログラムへ積極的に参画し、特に、その中核的事業として実施する「日本博」の取組を推進する。

なお、本年度は国立劇場開場55周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の伝統芸能の保存と振興に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動

(a) 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）による助成

i. 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動

ii. 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動

iii. 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

(b) 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）による助成

i. 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動（舞台芸術創造活動活性化事業）

ii. 我が国の芸術団体の水準向上と国際発信力の強化を図り、我が国の国際的なプレゼンスの向上に寄与するため国内外で実施する実演芸術の公演活動（国際芸術交流支援事業）

iii. 優れた日本映画の製作活動（映画創造活動支援事業）

② 文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの

(a) 芸術文化振興基金による助成

i. 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

ii. 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

(b) 文化芸術振興費補助金による助成（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

i. 我が国トップレベルの劇場・音楽堂等が行う事業

ii. 地域の中核的役割を担う劇場・音楽堂等が行う事業

iii. 複数の劇場・音楽堂等が複数又は単一の実演芸術団体等と共同して行う実演芸術の新たな創造活動

iv. 劇場・音楽堂等相互の連携・協力による巡回公演

③ その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動（以下、基金による助成）

(a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 助成金交付事務の効率化等

① 基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表する。

② 助成対象活動について、専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等により、採択の審査過程で当該活動に期待された点の実現状況の確認等を目的とした公演等調査を行う。補助金による助成対象活動のうち、舞台芸術創造活動活性化事業、劇場・音楽堂等機能強化推進事業、国際芸術交流支援事業について、調査結果を踏まえて評価を行い、その結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。

③ 助成対象活動に係る会計の執行状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、PD・POによる助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換を実施する。

・ 会計調査：30件以上（団体数）

- ・ 公演等調査：540 件以上（助成対象件数）

④ 特定の分野にとらわれることなく分野を横断した調査研究を進めるため、PD・PO等の体制強化を行う。

また、助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等の結果を踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行うとともに、海外の公的助成制度の事例を参考にしつつ、助成事業の評価手法に関する調査を行うなど、文化芸術に対する支援策等をより有効に機能させる上で必要となる調査研究を実施する。

⑤ 地域の文化振興等の活動について、助成対象活動の募集に関する広報業務等の効率化が図れるよう、地方公共団体と連携協力する。

⑥ 助成金交付事務手続の合理化を図るため、令和2・3年度に設計・構築作業を行う新たな助成業務システムを活用し、令和4年度助成対象活動の募集を行う。

ウ 基金運用収入の将来見込みを踏まえ、補助金による助成事業との役割分担にも留意しつつ、効果的かつ効率的な支援の方策を含めた基金及び基金助成事業の将来の在り方について検討し、新たな制度により、令和4年度芸術文化振興基金助成対象活動を募集する。

エ PD・PO等を活用した審査・評価等の仕組みについては、今後とも文化庁と連携し、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。併せて、地域におけるアーツカウンシル機能を有する組織との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」を活用し、機関相互の情報交換やノウハウ等を共有するとともに、人的交流について検討を進める。

オ 助成事業によって得られた成果等について、公演事業、調査・養成事業等の振興会の他の事業に活用することを検討する。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術団体が基金を含めた多様な助成制度を活用することができるよう、官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供する。

イ 振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させる。また、引き続き助成対象活動の事例集を作成・配布するとともに、ホームページに掲載する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 文化芸術団体等を対象とした、助成金に関する応募相談を受け付ける。令和2年度に実施した、従来の対面方式以外の、オンラインによる相談、メールフォーム等による相談等、多様な方法による相談を継続して受け付け、応募相談者の状況に応じた対応

を実施する。

- ・ 相談件数：200 件以上（団体数）

(3) 芸術文化振興基金の管理運用

基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、金融市場及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

(4) 文化芸術活動に対する緊急支援（文化芸術活動の継続支援事業）

文化芸術の振興を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により活動自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体等に対し、感染対策を行いつつ、直面する課題を克服し、活動の再開・継続に向けた積極的取組等に必要な経費を支援する。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。また、日本博に関連した公演を企画する。

イ 演目の拡充

- ① 歌舞伎における復活等の上演に際しては、「国立劇場文芸研究会」が補綴を行い、台本を作成する。歌舞伎振興のため、歌舞伎の新作脚本募集の選考及び表彰を行う。
- ② 文楽について、新作の上演に向けて上演台本作成作業を行う。また、上演が途絶えていた場面の復活上演のための準備をする。
- ③ 舞踊・邦楽の新作委嘱作品の上演を行う。
- ④ 大衆芸能について、上演機会の少ない優れた演目の上演を行う。
- ⑤ 能楽について、復曲作品の初演を行う。また、国立能楽堂で制作初演された新作及び他の能楽堂等で上演された復曲作品の再演を行う。
- ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。

また、「新作組踊・戯曲大賞」として公募し、選考・表彰を行う。

さらに、効果的な映像活用や復帰 50 周年と関連して県等との連携(国民文化祭、世界のうちなーんちゅ大会)を図る。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表 4 のとおり実施する。

イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画を別表 5 のとおり実施する。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等(連携協力、全国・国際公演等)

ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等と連携協力し、共催、受託等による公演等を別表 6 のとおり実施する。

② 全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施する。

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施する。

④ 伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催する。

⑤ より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信等を実施する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行う。

また、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮し、劇場内外の環境整備等各種サービスの充実に努める。特に、東京 2020 大会の期間中は、外国人利用者への対応の充実に努める。

イ 入場券販売において、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。

ウ 公演内容等の理解を促進するため、解説書等を作成するとともに、音声同時解説や字幕表示等のサービスを提供する。

また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会等を適宜行う。

エ 幅広い観点で実施する観客へのアンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

ホームページ等で寄せられる意見・要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。また、内容を集計・分析し、その結果をサービスの向上に活用する。

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。
- ② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。
 - (a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。
 - (b) SNS やメールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。
 - (c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を効果的に行う。より効果的な情報発信を行うための検討を進める。
 - (d) 国内外に向けた振興会各種事業の情報発信及び周知を効果的に行う。
- ③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。
 - ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
 - ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
 - ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）
- ④ 観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。
- ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。
- ⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。
- ⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報等による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、引き続きアンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用する。

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）
 - ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）

- ・ 会員向けイベント：年 4 回程度
- ② 国立文楽劇場友の会
 - ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 2 回程度
- ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年 4 回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 3 回程度
- ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
 - ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 12 回程度

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与する。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
- ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
- ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

ウ 振興会が有する 6 劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に行う。

(8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等とコロナ禍による新たな環境を見据え、多言語映像コンテンツの制作・発信にも力を入れた国内観光需要・インバウンド需要の喚起を目指し、戦略的なプロモーションに関する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営する。

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施する。

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 9※令和 3 年度実施分)

- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。
- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下でイノベーション型プロジェクトを実施する。

- ① 「日本博」プロジェクトとして企画・実施する新規性・創造性が高い文化芸術プロジェクト等について補助事業の公募を受け付ける。受け付けた事業については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の審査、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。
- ② イノベーション型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等への補助金交付に関する業務を行う。
- ③ イノベーション型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 各地域や団体の特色ある企画について参画プロジェクトとして認証する。

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施する。

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、映像コンテンツ等の発信を含め、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

オ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動及びそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的効果等を効果検証の基本方針や指標等に沿って、定量的・定性的に測定し、その結果を検証する。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、各分野の充足状況及び年齢構成等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 第25期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)

(b) 第26期生(研修期間2年、5名)の1年目の養成研修

(歌舞伎音楽)

(c) 竹本第24期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)

(d) 鳴物第17期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)

(e) 長唄第8期生(研修期間3年、1名)の3年目の養成研修(修了)

② 大衆芸能

(a) 寄席囃子第16期生(研修期間2年、4名)の2年目の養成研修(修了)

③ 能楽(ワキ・囃子・狂言：研修期間6年)

(a) 第10期生(2名)の5年目の養成研修

(b) 第11期生(3名)の2年目の養成研修

④ 文楽(太夫・三味線：研修期間2年)

(a) 第30期生(2名)の1年目の養成研修

⑤ 組踊(立方・地方：研修期間3年)

(a) 第6期生(10名)の2年目の養成研修

⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表10のとおり実施する。

⑦ 以下の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討し、募集を行う。

(a) 第27期歌舞伎俳優

(b) 第25期歌舞伎音楽(竹本)

(c) 第18期歌舞伎音楽(鳴物)

(d) 第9期歌舞伎音楽(長唄)

(e) 第8期大衆芸能(太神楽)

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

- ① 既成者研修発表会を別表 10 のとおり実施する。
- ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

- ① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。
- ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、舞台技術者等に対する各種研修の実施や、外部研修への協力等に努める。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

- ① オペラ研修（研修期間 3 年）
 - (a) 第 22 期生（5 名）の 3 年目の研修（修了）
 - (b) 第 23 期生（4 名）の 2 年目の研修
 - (c) 第 24 期生（5 名）の 1 年目の研修
 - (d) 第 25 期生（5 名程度）の募集
 - (e) 研修発表会等を別表 10 のとおり実施する。
 - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9 月～10 月と 3 月に海外研修を行う。
- ② バレエ研修（研修期間 2 年）
 - (a) 第 17 期生（6 名）の 2 年目の研修（修了）
 - (b) 第 18 期生（6 名）の 1 年目の研修
 - (c) 第 19 期生（6 名程度）の募集
 - (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第 12 期生（5 名）の 2 年目の研修
 - ・ 第 13 期生（3 名）の 1 年目の研修
 - ・ 第 14 期生（若干名）の募集

- (e) 研修発表会等を別表 10 のとおり実施する。
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う。

③ 演劇研修（研修期間 3 年）

- (a) 第 15 期生（9 名）の 3 年目の研修（修了）
- (b) 第 16 期生（10 名）の 2 年目の研修
- (c) 第 17 期生（14 名）の 1 年目の研修
- (d) 第 18 期生（16 名程度）の募集
- (e) 研修発表会等を別表 10 のとおり実施する。
- (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、国内研修を行う。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める。
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める。
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用する。
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究を行う。その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用する。
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十六巻
 - (b) 特別展「日本人と自然」図録（能楽堂）

- (c) 「義太夫年表」昭和篇第六巻の刊行及び第七巻（令和五年度刊行予定）の刊行準備
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布する。

(a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」別冊

(b) 正本写合巻集 29・30

- ④ 調査研究の成果については、従来の刊行等に加え、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的に活用する。

(a) 歌舞伎・文楽公演の上演資料集を web 版として文化デジタルライブラリーで公開する。

(b) 「絵入根本集 1」を web 版として文化デジタルライブラリーで公開する。

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

- ① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を行う。

図書については、開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。

博物資料等については、適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用に努める。

- ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり行う。

(a) 図書、錦絵、ブロマイド、公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）のデータベース化

i. 芝居版画等図録第 18 巻の発行（web 図録 第 6 巻）

(b) デジタルコンテンツの充実

i. Adobe Flash のサポート終了に伴う文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの非フラッシュ化

ii. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツのリニューアル版の製作

iii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数：530,000 件

(c) 収集した資料等の展示公開（別表 11）

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る。

(d) 展示図録の刊行

i. 特別展「日本人と自然」図録（能楽堂・再掲）

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用する。

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。

- ① 伝統芸能に関する公開講座等を別表 12 のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める。
- ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進するため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める。

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

- ① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会等を実施する。
- ② 他劇場等の情報を収集して、公演の充実に活用するとともに、公演プログラム等において公開する。
- ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存を行い、他の劇場施設等への貸与を行う。
- ④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介する。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。

- ① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。
- ② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を行う。
- ③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 11 のとおり行う。舞台美術センター資料館については外部施設を活用したアウトリーチによる展示に特化するとともに、衣裳等の保管機能を強化することとし、具体的な準備を進める。

また、ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実に努める。

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに現代舞台芸術の研究等に活用する。
- イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。
 - ① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 12 のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。
 - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
 - ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 組織体制の整備・強化

東京 2020 大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として実施する「日本博」において、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を運営し、引き続き企画立案・広報機能の強化を図る。

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約の適正化

- ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。
 - また、その取組状況をホームページで公表する。
- イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。
- ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

- ア 共同調達等の取組の推進
 - 法人間又は周辺他機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。なお、

この他の品目の共同調達の実施については、費用対効果に配慮しつつ検討を行う。

- ① コピー用紙
- ② トイレットペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素（CO₂）の排出削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(5) 情報システムの活用

- ア 業務システムの安定稼動を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。
- イ 基幹の情報システムの更新を行い、勤務形態の変化への対応、情報セキュリティの強化、外部サービスの一層の活用を推進しつつ、業務のデジタル化を進め、システムの最適化を踏まえた業務の効率化を図る。

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理する。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

- 1 予算 別紙 1 のとおり
- 2 収支計画 別紙 2 のとおり
- 3 資金計画 別紙 3 のとおり

収入面については、寄附金・補助金等の外部資金を積極的に獲得する。

4 保有資産の処分

保有資産については、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

Ⅳ その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

- ア 令和 2 年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

また、上記の自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

ウ リスク管理委員会において、引き続き業務ごとに内在するリスクを把握するとともに、リスク顕在時における対応策を策定する。

エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。より効果的な情報発信に向けてホームページの体裁の検討を進める。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、実施手順等関係文書の整備、役職員の研修、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る。

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応する。ウイルスや不正アクセス等の情報を収集し、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練を実施し、組織的対応能力の強化に取り組む。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、政府及び都道府県の要請等を踏まえ、必要に応じて専門家の意見を聴取することとし、観客、出演者・関係者及び役職員の安心・安全に配慮した適切な業務運営を行う。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 令和2年度に策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づき、施設・設備の状態を常に把握し、施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。また、施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等隼町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム（以下「PT」という。）により策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、実施方針の策定・公表、特定事業の選定・公表を行う。

なお、国立劇場再整備に向けた検討及び調査研究については、PT、評議員会等の意見を踏まえながら、国立劇場再整備委員会が中心となって実施する。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の再整備計画との関連に留意する。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る。

- ① 各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。
- ② 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。
- ③ 多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討する。

ウ ア及びイの取組の向上を図るため、人材確保・育成方針を策定する。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

[別表1] 伝統芸能の公開に関する計画

1 歌舞伎

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月2日～26日	23回	23日	12,900人
11月歌舞伎公演	〃	11月2日～25日	36回	22日	20,190人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	23回	23日	15,660人
3月歌舞伎公演	〃	3月3日～27日	23回	23日	12,900人
本公演（4公演）小計			105回	91日	61,650人
6月歌舞伎鑑賞教室	本館大劇場	6月2日～23日	40回	20日	34,850人
7月歌舞伎鑑賞教室	〃	7月3日～27日	46回	23日	40,080人
鑑賞教室（2公演）小計			86回	43日	74,930人
歌舞伎（6公演）合計			191回	134日	136,580人

2 文楽

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
5月文楽公演	本館小劇場	5月9日～26日	51回	17日	15,670人
9月文楽公演	〃	9月4日～21日	51回	17日	15,670人
12月文楽公演	〃	12月4日～17日	13回	13日	5,810人
2月文楽公演	〃	2月5日～22日	51回	17日	19,020人
12月文楽鑑賞教室	〃	12月4日～17日	25回	13日	11,390人
本館（5公演）小計			191回	77日	67,560人
4月文楽公演	文楽劇場	4月3日～25日	66回	22日	16,000人
夏休み文楽特別公演	〃	7月16日～8月3日	54回	18日	13,500人
錦秋文楽公演	〃	10月30日～11月21日	66回	22日	16,000人
初春文楽公演	〃	1月3日～26日	69回	23日	16,000人
6月文楽鑑賞教室	〃	6月3日～17日	28回	14日	13,000人
文楽劇場（5公演）小計			283回	99日	74,500人
文楽（10公演）合計			474回	176日	142,060人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
8月舞踊公演	本館大劇場	8月1日	1回	1日	820人
11月舞踊公演	本館小劇場	11月20日	3回	1日	1,370人
3月舞踊公演	〃	3月5日	1回	1日	340人
10月邦楽公演	〃	10月9日	1回	1日	470人
10月邦楽公演	〃	10月23日	2回	1日	970人
1月邦楽公演	〃	1月15日	2回	1日	770人
1月邦楽公演	〃	1月29日	2回	1日	840人
9月雅楽公演	本館大劇場	9月18日	1回	1日	900人

11月雅楽公演	本館小劇場	11月13日	1回	1日	450人
2月声明公演	本館大劇場	2月5日	1回	1日	1,110人
6月民俗芸能公演	本館小劇場	6月19日	2回	1日	640人
4月舞踊・邦楽公演	〃	4月17日	1回	1日	320人
5月特別企画公演	本館大劇場	5月22日	1回	1日	770人
7月特別企画公演	本館小劇場	7月24日	1回	1日	320人
8月特別企画公演	本館大劇場	8月7日	1回	1日	870人
本館（15公演）小計			21回	15日	10,960人
10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽劇場	10月9日	2回	1日	600人
8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8月21日	1回	1日	290人
2月特別企画「雅楽」	〃	2月26日	2回	1日	1,100人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5月15日	1回	1日	230人
文楽劇場（4公演）小計			6回	4日	2,220人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（19公演）合計			27回	19日	13,180人

4 大衆芸能

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 （5月・1月は中席のみ）	219回	219日	29,080人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	2,748人
新春名人会	〃	1月2日～7日	7回	6日	2,016人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 （1月を除く）	11回	11日	2,460人
特別企画公演（8公演）	〃	毎月実施 （4, 8, 1, 3月を除く）	13回	13日	2,814人
演芸場（54公演）小計			262回	261日	39,118人
浪曲名人会	文楽劇場	2月19日	1回	1日	600人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5月29日	2回	1日	160人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月に実施	24回	24日	2,520人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	3,280人
大衆芸能（62公演）合計			289回	287日	42,398人

5 能楽 劇場：能楽堂

区分	公演名	期間	回数	日数	目標 入場者数
定例公演	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「土筆」、能「熊野 村雨留」	4月7日	1回	1日	545人
	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「栗焼」、能「小督」	4月16日	1回	1日	545人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「孫聳」、能「六浦」	5月12日	1回	1日	545人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「蝸牛」、能「西行桜 素囃子」	5月21日	1回	1日	545人
	月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「花盗人」、能「吉野天人 天人揃」	6月2日	1回	1日	545人
	月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「箕被」、能「松風」	6月18日	1回	1日	545人
	狂言「咲嘩」、能「東方朔」	7月7日	1回	1日	545人

	狂言「隠笠」、能「玉葛」	7月14日	1回	1日	545人
	狂言「因幡堂」、能「藤戸」	9月8日	1回	1日	545人
	狂言「合柿」、能「絃上 クツロギ・舞返」	9月17日	1回	1日	545人
	狂言「蟹山伏」、能「仏原」	10月6日	1回	1日	580人
	狂言「小傘」、能「春栄」	10月15日	1回	1日	580人
	狂言「無布施経」、能「忠度」	11月10日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「成上り」、能「海士 懐中之舞」	11月19日	1回	1日	580人
	狂言「樽髻」、能「代主」	12月1日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「成上り」、能「海士 変成男子」	12月17日	1回	1日	580人
	能「松尾」、狂言「筑紫奥」	1月5日	1回	1日	580人
	狂言「文荷」、能「千手」	1月21日	1回	1日	580人
	月間特集 近代絵画と能 狂言「簸屑」、能「室君」	2月2日	1回	1日	580人
	月間特集 近代絵画と能 狂言「文山賊」、能「昭君」	2月18日	1回	1日	580人
	狂言「牛馬」、能「朝長」	3月2日	1回	1日	580人
	狂言「鬼瓦」、能「当麻 二段返」	3月18日	1回	1日	580人
定例公演（22公演）小計			22回	22日	12,410人
普及公演	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 解説、狂言「呂蓮」、能「夕顔」	4月10日	1回	1日	573人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 解説、狂言「茸」、能「藤」	5月8日	1回	1日	573人
	月間特集 日本人と自然 花鳥風月 解説、狂言「千鳥」、能「善知鳥」	6月12日	1回	1日	573人
	解説、狂言「地蔵舞」、能「班女」	7月10日	1回	1日	573人
	解説、狂言「名取川」、能「熊坂 替之型」	9月11日	1回	1日	573人
	解説、狂言「清水」、能「蟬丸 替之型」	10月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「寝音曲」、能「初雪 古式」	11月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「伯母ヶ酒」、能「巻絹」	12月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「魚説法」、能「龍虎」	1月8日	1回	1日	610人
	月間特集 近代絵画と能 解説、狂言「酢薑」、能「鉢木」	2月26日	1回	1日	610人
	解説、狂言「縄綱」、能「箆」	3月12日	1回	1日	610人
普及公演（11公演）小計			11回	11日	6,525人
企画公演	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 【企画公演】日本人と自然 おはなし、狂言「木六駄」、復曲能「泰山木」	4月22日	1回	1日	554人
	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 【企画公演】女性能楽師による 仕舞「忠度」「野宮」「山姥 クセ」、能「葛城」	4月29日	1回	1日	554人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 【狂言企画公演】日本人と自然 狂言「梟」、狂言「蟬」、新作狂言「鮎」	5月26日	2回	1日	1,108人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 【特別公演】 能「半薔 立花」、狂言「蚊相撲」、能「鷺」	5月29日	1回	1日	554人
	【企画公演】安倍晴明生誕1100年 講演、説教節「葛の葉」、能「鉄輪」	7月24日	1回	1日	554人
	【企画公演】夏スペシャル 働く貴方の能楽公演 対談または実演、狂言「真奪」、能「是界」	8月5日	1回	1日	554人

	【企画公演】夏スペシャル 親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「仏師」、狂言「棒縛」	8月7日	1回	1日	554人
	【企画公演】夏スペシャル 親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8月28日	1回	1日	554人
	【狂言の会】家・世代を越えて 狂言「萩大名」、狂言「鏡男」、狂言「腰折」	9月22日	1回	1日	554人
	【特別公演】 能「頼政」、狂言「飛越」、能「三井寺」	10月30日	1回	1日	590人
	【企画公演】蝋燭の灯りによる 狂言「空腕」、能「鶴白頭」	11月26日	1回	1日	590人
	【企画公演】狂言と落語・講談 落語、講談、狂言「業平餅」	12月23日	1回	1日	590人
	【狂言の会】 狂言「連歌毘沙門」、狂言「犬山伏」、狂言「髭櫓」	1月14日	1回	1日	590人
	【特別公演】 仕舞、狂言「二千石」、能「求塚」	1月26日	1回	1日	590人
	【企画公演】働く貴方の能楽公演 対談または実演、狂言「佐渡狐」、能「花月」	2月23日	1回	1日	590人
	【特別企画公演】能・狂言を再発見する おはなし、狂言「袴裂」、復曲能「岩船」	3月25日・26日	2回	2日	1,180人
企画公演（16公演）小計			18回	17日	10,260人
鑑賞教室 等	【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「寝音曲」、能「殺生石」	6月21日～25日	10回	5日	5,685人
	【外国人のための能楽鑑賞教室】 解説、狂言「口真似」、能「高砂」	10月21日	1回	1日	580人
鑑賞教室（2公演）小計			11回	6日	6,265人
能楽（51公演）合計			62回	56日	35,460人

6 組踊等沖縄伝統芸能

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期公演	三線音楽「古典音楽の美」	国立劇場おきなわ 大劇場	4月24日	1回	1日	227人
	組踊「執心鐘入」	〃	5月15日	1回	1日	218人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	6月19日	2回	1日	493人
	組踊「大川敵討」（糺しの場）	〃	7月10日	1回	1日	218人
	琉球舞踊鑑賞会①	〃	7月23日	1回	1日	242人
	琉球舞踊鑑賞会②	〃	7月24日	1回	1日	242人
	沖縄芝居 「与那国シヨングネー」「黒島王物語」	〃	9月18日	2回	1日	354人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	1月15日～16日	2回	2日	862人
	組踊「二童敵討」	〃	2月12日	1回	1日	348人
定期公演（9公演）小計				12回	10日	3,204人
企画公演	アジア・太平洋地域の芸能	国立劇場おきなわ 大劇場	10月31日	1回	1日	400人
	国立劇場寄席	〃	11月13日	1回	1日	495人
	ゆらていく遊ば	〃	12月18日～19日	2回	2日	786人
	歌舞劇「首里城物語」	〃	2月26日～27日	2回	2日	739人
	新作組踊「真珠道」	〃	3月12日	1回	1日	400人
企画公演（5公演）小計				7回	7日	2,820人
研究公演	組踊「伊祖の子組」	国立劇場おきなわ 大劇場	1月22日	1回	1日	365人
研究公演（1公演）小計				1回	1日	365人

普及公演	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	8月7日～8日	2回	2日	452人
	沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」	〃	9月16日～17日	2回	2日	394人
	組踊鑑賞教室「銘苺子」	〃	10月23日	1回	1日	441人
	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	11月24日～26日	6回	3日	2,418人
	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	〃	11月27日	1回	1日	403人
普及公演（5公演）小計				12回	9日	4,108人
組踊等沖縄伝統芸能（20公演）合計				32回	27日	10,497人
伝統芸能分野（168公演）合計				1,075回	699日	380,175人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「夜鳴きうぐいす」「イオランタ」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	4月4日～11日	4回	4日	3,800人
「ルチア」	〃	4月18日～25日	4回	4日	4,100人
「ドン・カルロ」	〃	5月20日～29日	4回	4日	3,800人
「カルメン」(新制作)	〃	7月3日～19日	6回	6日	8,100人
「チェネレントラ」(新制作)	〃	10月1日～13日	6回	6日	8,000人
「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(新制作)	〃	11月18日～12月1日	5回	5日	7,200人
「蝶々夫人」	〃	12月5日～12日	4回	4日	5,200人
「さまよえるオランダ人」	〃	1月26日～2月6日	4回	4日	5,000人
「愛の妙薬」	〃	2月7日～13日	4回	4日	4,100人
「椿姫」	〃	3月10日～21日	5回	5日	6,900人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」	〃	7月9日～16日	6回	6日	9,600人
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」(新制作)	〃	8月21日～22日	2回	2日	2,000人
オペラ(12公演)合計			54回	54日	67,800人

2 バレエ

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「 Coppélia 」	新国立劇場 オペラ劇場	5月1日～8日	5回	5日	4,700人
「ライモンダ」	〃	6月5日～13日	5回	5日	5,400人
「白鳥の湖」(新制作)	〃	10月23日～11月3日	8回	7日	10,300人
「くるみ割り人形」	〃	12月18日～1月3日	12回	10日	15,700人
ニューイヤール・バレエ	〃	1月14日～16日	3回	3日	3,700人
吉田都セレクション	〃	2月19日～23日	3回	3日	3,700人
エデュケーション・プログラムvol.1 ようこそ「シンデレラ」のお城へ!	〃	2月26日～27日	2回	2日	1,900人
こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう」 ～亀の姫と季(とき)の庭～	〃	7月24日～27日	8回	4日	6,600人
バレエ(8公演)合計			46回	39日	52,000人

3 現代舞踊

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
Co. 山田うん「オバケッタ」	新国立劇場 小劇場	7月2日～4日	3回	3日	700人
新国立劇場バレエ団 「DANCE to the Future : 2021 Selection」	新国立劇場 中劇場	11月27日、28日	2回	2日	1,100人
小野寺修二カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	新国立劇場 小劇場	3月18日～21日	5回	4日	1,200人
現代舞踊(3公演)合計			10回	9日	3,000人

4 演劇

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
人を思いうちから 其の壱/フルオーディション3 「斬られの仙太」	新国立劇場 小劇場	4月6日～25日	18回	18日	3,200人

人を思うちから 其の弐 「東京ゴッドファーザーズ」	〃	5月2日～30日	32回	24日	9,500人
人を思うちから 其の参 「キネマの天地」	〃	6月5日～27日	23回	18日	6,400人
フルオーデション2 「反応工程」	〃	7月12日～25日	16回	12日	3,000人
海外招聘公演 「ガラスの動物園」	新国立劇場 中劇場	9月3日～12日	9回	9日	5,500人
フルオーデション4 「イロアセル」	新国立劇場 小劇場	11月7日～28日	20回	17日	4,200人
「あーぶくたった、にいたった」	〃	12月7日～19日	14回	12日	2,500人
演劇（7公演）合計			132回	110日	34,300人

※他に、将来の上演に向け作品作りを行うディベロップメント企画「こつこつプロジェクト」、英国ロイヤルコート劇場と連携した劇作家ワークショップを実施。

現代舞台芸術分野（30公演）合計	242回	212日	157,100人
------------------	------	------	----------

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室	本館大劇場	6月2日～23日	40回	20日	34,850人
"	7月歌舞伎鑑賞教室	"	7月3日～27日	46回	23日	40,080人
文楽	12月文楽鑑賞教室	本館小劇場	12月4日～17日	25回	13日	11,390人
"	6月文楽鑑賞教室	文楽劇場	6月3日～17日	28回	14日	13,000人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「寝音曲」、能「殺生石」	能楽堂	6月21日～25日	10回	5日	5,685人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」	国立劇場おきなわ 大劇場	9月16日～17日	2回	2日	394人
"	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	"	11月24日～26日	6回	3日	2,418人
伝統芸能分野(7公演)合計				157回	80日	107,817人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021 「カルメン」	新国立劇場 オペラ劇場	7月9日～16日	6回	6日	9,600人
"	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」 (新制作)	"	8月21日～22日	2回	2日	2,000人
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2021 「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき) の庭～	"	7月24日～27日	8回	4日	6,600人
"	エデュケーショナル・プログラムvol.1 ようこそ「シンデレラ」のお城へ!	"	2月26日～27日	2回	2日	1,900人
現代舞踊	Co. 山田うん「オバケッタ」	新国立劇場 小劇場	7月2日～4日	3回	3日	700人
"	小野寺修二カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	"	3月18日～21日	5回	4日	1,200人
現代舞台芸術分野(6公演)合計				26回	21日	22,000人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人・親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月11日・18日	2回	2日
"	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	"	7月9日・20日	2回	2日
"	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	"	7月20日～26日	12回	7日
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12月6日～7日	2回	2日
"	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門/Discover BUNRAKU」	文楽劇場	6月6日	2回	1日
"	夏休み文楽特別公演(第一部 親子劇場)	"	7月16日～8月3日	18回	18日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月24日	1回	1日
能楽	【企画公演】働く貴方の能楽公演	能楽堂	8月5日	1回	1日
"	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	"	8月7日	1回	1日
"	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	"	8月28日	1回	1日
"	【企画公演】働く貴方の能楽公演	"	2月23日	1回	1日
組踊等	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	8月7日～8日	2回	2日
"	組踊鑑賞教室「銘苺子」	"	10月23日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表5] 外国人を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI -外国人のための歌舞伎鑑賞教室-」	本館大劇場	7月26日～27日	3回	2日
文楽	12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU -外国人のための文楽鑑賞教室-」	本館小劇場	12月14日	1回	1日
〃	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門/Discover BUNRAKU」	文楽劇場	6月6日	2回	1日
舞踊	8月舞踊公演	本館大劇場	8月1日	1回	1日
特別企画	Discover 舞踊・邦楽(仮)	本館小劇場	7月24日	1回	1日
〃	日本の太鼓 Japanese Drum Performance (仮)	本館大劇場	8月7日	1回	1日
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	10月21日	1回	1日
組踊等	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ 大劇場	11月27日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表6] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	連携協力先等
共催	5月特別企画公演	本館大劇場	5月22日	1回	(公財)東京都歴史文化財団 他
〃	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 小劇場	6～2月	14～19回 予定	(公財)沖縄県文化振興会
〃	新春組踊大公演	国立劇場おきなわ 大劇場	1月	1回程度	(一社)伝統組踊保存会
〃	国立劇場おきなわ県外公演	未定	未定	未定	未定
伝統芸能分野 合計 4 公演					
共催	オペラ「清教徒」	新国立劇場 オペラ劇場	9月10日～12日	3回	(公財)日本オペラ振興会 (公財)東京二期会
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021 「ドン・パスクワレ」	ロームシアター 京都 メインホール	10月26日～27日	2回	京都市、ロームシアター京都 (公財)京都市音楽芸術文化振興財団
提携	オペラ「カルメン」	滋賀県立劇場 びわ湖ホール 大ホール	7月31日～8月1日	2回	滋賀県、滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール
〃	オペラ 「ニルンベルクのマイスタージンガー」	東京文化会館 大ホール	8月4日～7日	2回	ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州 立歌劇場、(公財)東京都歴史文化財団
現代舞台芸術分野 合計 4 公演					

[別表7] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	6月25日～26日	4回	かながわ伝統芸能祭 実行委員会
共催	国立劇場おきなわ県外公演	未定	未定	未定	未定
受託	復曲能「名取ノ老女」名取公演	名取市文化会館 大ホール	10月3日	1回	名取市、(公財)名取市文 化振興財団
伝統芸能分野 合計 3 公演					
提携	オペラ「カルメン」	滋賀県立劇場 びわ湖ホール 大ホール	7月31日～8月1日	2回	滋賀県、滋賀県立芸術劇 場びわ湖ホール
"	オペラ 「ニュルンベルクのマイスタージンガー」	東京文化会館 大ホール	8月4日～7日	2回	(公財)東京都歴史文化 財団
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021 「ドン・パスクワレ」	ロームシアター京 都 メインホール	10月26日～27日	2回	京都市、ロームシアター京 都(公財)京都市音楽芸 術文化振興財団
受託	バレエ「白鳥の湖」	やまぎん県民ホー ル(山形県総合文 化芸術館) 大ホール	4月10日	1回	山形県総合文化芸術館 オープニング事業等実 行委員会
"	演劇「東京ゴッドファーザーズ」	穂の国とよはし芸 術劇場PLAT 主ホール	6月4日～6日	3回	(公財)豊橋文化振興財団
"	演劇「東京ゴッドファーザーズ」	兵庫県立芸術文化 センター阪急 中ホール	6月11日～12日	3回	兵庫県、兵庫県立芸術 文化センター
"	演劇「東京ゴッドファーザーズ」	高崎芸術劇場 スタジオシアター	6月17日～18日	2回	(公財)高崎財団
"	こどものためのバレエ劇場 2021 バレエ「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季 (とき)の庭～	フェスティバル ホール	9月23日	1回	(公財)朝日新聞文化財 団、朝日新聞社、大阪国際 フェスティバル協会、フェ スティバルホール
"	バレエ「白鳥の湖」	上田市交流文化芸 術センター(サン トミュージーゼ) 大ホール	11月7日	1回	上田市(上田市交流文化 芸術センター)、上田市 教育委員会
"	バレエガラ公演(公演名未定)	枚方市総合文化芸 術センター	1月29日	1回	枚方市総合文化芸術セン ター(仮)
"	現代舞踊「ふしぎの国のアリス」	富山市芸術文化 ホール(オーバ ード・ホール)舞 台上特設シアター	3月26日～27日	2回	(公財)富山市民文化事 業団、富山市
現代舞台芸術分野 合計 11 公演					

[別表8] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間	回数	連携協力先等
7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」	本館大劇場	7月26日～27日	3回	
12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」	本館小劇場	12月14日	1回	
5月特別企画公演	本館大劇場	5月22日	1回	(公財)東京都歴史文化財団他
8月舞踊公演	本館大劇場	8月1日	1回	
Discover 舞踊・邦楽(仮)	本館小劇場	7月24日	1回	
日本の太鼓 Japanese Drum Performance(仮)	本館大劇場	8月7日	1回	
6月文楽鑑賞教室 「社会人・外国人のための文楽鑑賞教室」	文楽劇場	6月6日	2回	
外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	10月21日	1回	
アジア・太平洋地域の芸能	国立劇場おきなわ 大劇場	10月31日	1回	文化庁芸術祭執行委員会
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	〃	11月27日	1回	
伝統芸能分野 合計 10 公演				
オペラ「ルチア」	新国立劇場 オペラ劇場	4月18日～25日	4回	モンテカルロ歌劇場
オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」	新国立劇場 オペラ劇場	11月18日～12月1日	5回	ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場、(公財)東京都歴史文化財団
海外招聘公演 演劇「ガラスの動物園」	新国立劇場 中劇場	9月3日～12日	9回	オデオン劇場
現代舞台芸術分野 合計 3 公演				

[別表9] 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）

No.	プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
1	企画展「イサム・ノグチ 発見の道」－日本の伝統と自然美に触れるプログラム－	株式会社朝日新聞社 （東京都美術館、NHK、NHKプロモーションとの連携企画）	令和3年 4月～8月
2	北斎と江戸の文化	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館	4月～9月
3	神々の集う国「出雲」体験フェスタ ～日本博in 出雲～	出雲市	4月～3月
4	国際芸術祭BIWAKOピエンナーレ2022に向けて	国際芸術祭BIWAKOピエンナーレ実行委員会	4月～3月
5	古代から令和の時代までつながる文化を巡る奈良博覧プロジェクトⅢ 世界遺産を巡る奈良博覧プロジェクト + 発掘現場・修理現場の公開	奈良県	4月～3月
6	伝統芸能にみる「日本人と自然」 －伝統芸能の重層性と日本人の美意識と自然観を体感する－	独立行政法人日本芸術文化振興会（国立劇場）	4月～3月
7	日本遺産を活かした伝統芸能ライブ「NOBODY KNOWS」プロジェクト	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	4月～3月
8	日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル	日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルに向けた全国会議	4月～3月
9	三陸国際芸術祭「縦」（仮称）	三陸国際芸術推進委員会	5月～3月
10	寄席「笑楽座」2021	公益社団法人落語芸術協会	5月～3月
11	「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館	6月～9月
12	特別展 「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」	東京国立博物館	6月～9月
13	ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2021	株式会社パシフィックボイス	6月～10月
14	伝統芸能発見！ —Discover 伝統芸能—	独立行政法人日本芸術文化振興会（国立劇場）	6月～12月
15	「日本博 × CLUB RED」	株式会社エヌケービー	6月～12月
16	日本の技EXPO～文化財を守る自然の素材と匠の技術～	株式会社NHKプロモーション	6月～2月
17	「神宿る島」国際文化芸術プロジェクト	宗像国際環境会議実行委員会	6月～3月
18	親と子のギャラリー まるごと体験！日本の文化リターンズ	東京国立博物館	7月～9月
19	「観客村」連携特別展示 陶板芸術「風神雷神図屏風」で魅せる日本の美	株式会社読売新聞東京本社	7月～9月
20	「東京2020オリンピック・パラリンピック能楽祭」 及び、「能楽を旅する」デジタルコンテンツ企画（仮称）	公益社団法人能楽協会	7月～9月
21	特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」	独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館	7月～9月
22	障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト	ビッグ・アイ共働機構（国際障害者交流センター）	7月～10月
23	「GENKYO 横尾忠則」展の関連プロジェクト「横尾忠則と滝シリーズ、 With Corona体験展示」（仮称）	株式会社朝日新聞社（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館との連携による）	7月～1月
24	（仮称）東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 安全祈願奉納流鏝馬	公益社団法人大日本弓馬会	7月～11月
25	（仮称）白老文化芸術交流	白老文化観光推進実行委員会	7月～2月
26	自然に影響を受けた日本人の美with Art Fair Tokyo 2022	一般社団法人アート東京	7月～3月
27	「響きあう、人・海・芸術～せとうち交響」プロジェクト	せとうちパレット日本博実行員会	7月～3月
28	「本城直季 (un)real utopia」東京会場開催と日本の自然・被災地の現状を伝える関連プロジェクト	株式会社朝日新聞社	7月～3月
29	琉球王朝の美～沖縄伝統芸能、その継承と発信～	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	7月～3月
30	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」	公益財団法人新国立劇場運営財団	8月
31	令和3年度文産官プラットフォームによるファッション文化創造プロジェクト（連携：経済産業省）	一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構	8月～9月
32	企画展「国立公園 —その自然には、物語がある—」連携事業	株式会社日本国際放送（環境省および独立行政法人国立科学博物館との共同事業）	8月～11月
33	GO FOR KOGEI - こころと技術の時代のアートプロジェクト（仮称）	認定NPO法人趣都金澤	8月～11月
34	日本の近代化遺産 ～自然の力と美を引き出す技～	全国近代化遺産活用連絡協議会	8月～12月

35	日本博特別企画「アイヌ文化フェスティバル」(仮称)	公益財団法人アイヌ民族文化財団	9月
36	春夏秋冬(フォーシーズンズ)(仮称)	東京国立博物館	9月～11月
37	寿ぎのきもの ジャパニーズ・ウェディング展 —日本の婚礼衣装と伝統的婚礼文化からみる日本人の自然感—	株式会社朝日新聞社	10月～11月
38	特別展「海幸山幸」関連特別公開	独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館	10月～12月
39	特別展「縄文2021 —東京に生きた縄文人—」	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館	10月～12月
40	庵野秀明展 —アニメ・特撮文化と日本の自然観—(仮称)	独立行政法人国立美術館 国立新美術館	10月～3月
41	「工芸ダイニング2021—工芸と食—」	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団	11月～2月
42	企画展「日本の生物多様性の解明と保全」(仮称)	独立行政法人国立科学博物館	12月～2月
43	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感!日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界」	独立行政法人日本芸術文化振興会	1月～3月
44	特別展 「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」	独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館	2月～3月

[別表10] 研修発表会等に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第25期歌舞伎俳優・第24期歌舞伎音楽(竹本)・第17期歌舞伎音楽(鳴物)・第8期歌舞伎音楽(長唄)・第16期大衆芸能(寄席囃子)研修修了発表会、第26期歌舞伎俳優研修発表会(合同)	本館小劇場	3月16日	1回	1日
能楽	第25回青翔会	能楽堂	6月15日	1回	1日
〃	第26回青翔会	〃	10月19日	1回	1日
〃	第27回青翔会	〃	3月15日	1回	1日
〃	東西合同研究発表会	京都観世会館	8月31日	1回	1日
文楽	第30期文楽研修発表会	文楽劇場 小ホール	1月28日	1回	1日
組踊	第6期組踊研修生第3回研修発表会	国立劇場おきなわ 大劇場	10月7日	1回	1日
〃	第6期組踊研修生第4回研修発表会	〃	3月3日	1回	1日
伝統芸能分野 研修発表会(8公演)合計				8回	8日
歌舞伎俳優 既成者	稚魚の会・歌舞伎会合同公演	本館小劇場	8月18日～22日	5回	5日
〃	上方歌舞伎会	文楽劇場	8月26日～27日	4回	2日
歌舞伎音楽 既成者	音の会	本館小劇場	8月13日～14日	2回	2日
能楽既成者	第30回能楽若手研究会 京都公演 若手能	京都観世会館	6月26日	1回	1日
〃	第30回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	1月30日	1回	1日
〃	第30回能楽若手研究会 東京公演 若手能	能楽堂	2月5日	1回	1日
文楽既成者	文楽若手会	文楽劇場	6月19日～20日	2回	2日
〃	文楽若手会	本館小劇場	6月24日～25日	2回	2日
〃	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	11月26日	1回	1日
〃	若手素浄瑠璃の会	〃	3月1日	1回	1日
組踊既成者	第11回若手伝承者公演	国立劇場おきなわ 大劇場	12月4日	1回	1日
伝統芸能分野 既成者研修(11公演)合計				21回	19日
オペラ	試演会	新国立劇場 小劇場	7月31日～8月1日	2回	2日
〃	歌唱コンサート	新国立劇場 中劇場	11月21日	1回	1日
〃	修了公演	〃	2月25日～27日	3回	3日
バレエ	「バレエ・アステラス2021」	新国立劇場 オペラ劇場	8月28日～29日	2回	2日
〃	研修所公演	新国立劇場 中劇場	10月16日～17日	2回	2日
〃	修了公演	〃	3月5日～6日	2回	2日
演劇	朗読劇	新国立劇場 小劇場	8月5日～8日	4回	4日
〃	試演会	〃	10月19日～24日	6回	6日
〃	修了公演	〃	2月1日～6日	6回	6日
現代舞台芸術分野(9公演)合計				28回	28日

[別表11] 展示に関する計画

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「見世物の精華」	伝統芸能情報館 情報展示室	4/1～5/26	56日	1,400人
企画展示「躍動する歌舞伎」(仮)		6/2～9/21	111日	2,775人
企画展示「舞台の花鳥風月—装いの美—(仮)		10/2～1/27	113日	2,825人
「新収蔵資料展」(仮)		2/5～3/31	55日	1,375人
伝統芸能情報館 小計		4回	335日	8,375人
「新収蔵資料展」(仮)	演芸場 資料展示室	4/1～7/25	97日	3,589人
演芸資料展「落語の風景」(仮)		8/1～11/23	96日	3,552人
演芸資料展「講談の世界」(仮)		12/1～3/21	82日	3,034人
演芸場資料展示室 小計		3回	275日	10,175人
特別展 【日本博】日本人と自然 —能楽と日本美術—	能楽堂 資料展示室	4/7～6/27	72日	3,096人
入門展 【日本博】能楽入門		7/7～10/30	88日	3,784人
企画展「小道具から見る能」(仮)		11/10～12/23	36日	1,548人
収蔵資料展「能面・能装束展」(仮)		1/5～3/26	61日	2,623人
能楽堂資料展示室 小計		4回	257日	11,051人
企画展示「文楽の景色」(仮)	文楽劇場 資料展示室	4/3～5/23	51日	2,193人
常設展示「文楽入門」		6/3～9/20	98日	4,214人
企画展示「未定」		10/9～11/28	51日	2,193人
常設展示「文楽入門」		1/3～2/27	56日	2,408人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	256日	11,008人
企画展「戦後の女流舞踊家」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/10～6/20	72日	2,043人
企画展「琉球芸能」(仮)		7/3～9/12	72日	2,043人
企画展「御冠船躍」(仮)		10/2～12/12	72日	2,043人
企画展「雪払」(仮)		1/15～3/21	66日	1,871人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	282日	8,000人
伝統芸能分野 合計		19回		48,609人
公演関係展示(劇場ホワイエ)	新国立劇場内	随時		-
公演関連展示(情報センター)		随時	230日	1,500人
公演関連展示(劇場内公開空地)		随時	364日	-
新国立劇場内 小計				1,500人
現代舞台芸術分野 合計				1,500人

[別表12] 公開講座等に関する計画

講座等名称		会場	実施時期	回数
伝統芸能講座(展示関連講座等)		伝統芸能情報館レクチャー室	未定	4回
公演記録映像アーカイブ有料配信		インターネット配信	未定	4回
能楽鑑賞講座		能楽堂大講義室	年4回実施	4回
能楽特別講座		能楽堂大講義室	年3回実施	3回
公演記録映像アーカイブ有料配信		インターネット配信	年4回実施	4回
文楽特別講座		国立文楽劇場小ホール	未定	4回
公演記録鑑賞会	※講座・鑑賞会合同開催	国立劇場おきなわ大劇場 国立劇場おきなわ小劇場	6/16	4回
沖縄伝統芸能公開講座			8月(未定) 10/12 2/8	
伝統芸能分野 合計				27回
現代舞台芸術講座		新国立劇場内	未定	15回
現代舞台芸術鑑賞会(情報センター上映会)		新国立劇場情報センター	毎月実施	24回
現代舞台芸術分野 合計				39回

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	310	7,904	720	661	1,542	11,137
雑収入	10	18	21	9	9	67
文化芸術振興費補助金	6,689	740				7,429
施設整備費補助金		764	10	7	126	906
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金		46				46
基金運用収入	1,010					1,010
寄附金収入	200					200
その他の助成事業収入	13					13
公演事業収入		2,392				2,392
公演受託事業収入		2,351				2,351
計	8,233	14,215	751	676	1,677	25,552
支 出						
一般管理費					1,551	1,551
うち人件費					1,175	1,175
うち物件費					376	376
事業費	320	7,922	741	670		9,653
うち人件費	105	1,865	76	172		2,218
うち助成情報提供等事業費	216					216
うち国立劇場事業費		1,507	285	405		2,197
うち国立劇場おきなわ事業費		606	51	56		713
うち新国立劇場事業費		3,944	329	37		4,310
文化芸術振興費	6,689	740				7,429
施設整備費		764	10	7	126	906
コンテンツグローバル需要創出促進事業費		46				46
基金助成事業費	1,223					1,223
うち人件費	154					154
うち物件費	1,070					1,070
公演事業費		2,392				2,392
公演受託事業費		2,351				2,351
計	8,233	14,215	751	676	1,677	25,552

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
費用の部						
国立劇場公演等事業費		9,533	417	630		10,580
新国立劇場公演等事業費		4,202	333	56		4,590
基金助成事業費	8,222					8,222
一般管理費					1,297	1,297
財務費用	0	7	0	0	0	8
計	8,222	13,742	750	686	1,298	24,698
収益の部						
運営費交付金収益	299	7,273	709	610	1,142	10,032
事業収入	1,010	2,260	21			3,292
受託事業収入		2,351				2,351
財産利用収入		35		7	8	50
資産見返負債戻入	1	613	6	37	18	675
賞与引当金見返に係る収益	6	153	6	15	66	246
退職給付引当金見返に係る収益	△ 6	157	7	15	64	236
文化芸術振興費補助金収益	6,689	740				7,429
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金収益		46				46
寄附金収益	200					200
財務収益		97			0	97
雑益	23	18		3	1	45
計	8,222	13,742	750	686	1,298	24,698
純利益	—	—	—	—	—	—
積立金取崩額						—
総利益	—	—	—	—	—	—

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
資金支出	21,093	15,215	751	676	5,187	42,922
業務活動による支出	14,328	12,898	738	605	1,455	30,024
投資活動による支出	1	2,192	12	37	158	2,401
財務活動による支出	3	125	0	34	64	227
翌年度への繰越金	6,760				3,510	10,270
資金収入	21,093	15,215	751	676	5,187	42,922
業務活動による収入	13,733	13,451	741	670	1,551	30,146
運営費交付金による収入	310	7,904	720	661	1,542	11,137
補助金による収入	6,689	786				7,475
公演事業による収入		2,392				2,392
公演受託事業による収入		2,351				2,351
養成事業による収入			21			21
基金運用による収入	1,010					1,010
その他の収入	5,723	18		9	9	5,759
投資活動による収入		1,764	10	7	126	1,906
施設整備費補助金による収入		764	10	7	126	906
その他の収入		1,000				1,000
財務活動による収入	600					600
民間出えん金の受入による収入	600					600
前年度よりの繰越金	6,760				3,510	10,270

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙4 令和3年度施設及び設備に関する計画

(単位：百万円)

区 分	予定額	財源
国立劇場再整備事業	126	施設整備費補助金
国立能楽堂防災設備改修工事	81	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台運営監視装置設備整備	65	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ冷却塔更新工事	58	施設整備費補助金
舞台芸術グローバル拠点事業	576	施設整備費補助金